おうとう

佐藤錦

発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
3.29	4.21	4.21	4.26	5.9	6.20

平年値（東根市東根）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
休眠期（3月末迄）［ハダニ重点防除］［カイガラムシ重点防除］	カイガラムシ類 （コスカシバ） （越冬病害虫）	水 1．ハーベストオイル 2．アプロードフロアブル	（98ℓ） 50倍（2ℓ） 1,000倍（100cc）	 発芽前 7日前まで	 － 2回以内	400ℓ	1．天気のよい温暖な日を選び薬剤をむらのないように散布するとともに、薬液のかかりやすい樹形に整理する。（手散布による補助散布） 2．コスカシバ対策　フェニックスフロアブル500倍（開花前まで1回）を樹幹散布する。 3．樹脂細菌病対策　石灰硫黄合剤10倍（発芽前）を樹幹散布する。	／		
開花1日前（風船状）［灰星病重点防除］	灰星病 幼果菌核病 炭そ病 ハマキムシ類	1．トレノックスフロアブル 2．バイオマックスDF	500倍（200cc） 2,000倍（50g）	21日前まで 前日まで	5回以内 －	400ℓ	1．この回以降、殺虫剤解禁までは訪花昆虫への影響を少なくするため早朝散布に努め、巣群に直接薬液がかからないようにする。	／		
状況五分咲［灰星病重点防除］	幼果菌核病 せん孔病 灰星病	1．トップジンM水和剤	1,500倍（66.6g）	14日前まで	3回以内	600ℓ	1．山手や開花期不順天候時に散布する。 2．展着剤は加用しない。	／		
満開期（八分咲）［灰星病重点防除］	灰星病 幼果菌核病 褐色せん孔病 ハマキムシ類	1．ファンタジスタ顆粒水和剤 2．バイオマックスDF	3,000倍（33.3g） 2,000倍（50g）	前日まで 前日まで	3回以内 －	600ℓ		／		
満開10日後［灰星病重点防除］	灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 （コアオカスミカメ）	1．スミレックス水和剤 2．オーソサイド水和剤80	1,500倍（66.6g） 800倍（125g）	14日前まで 3日前まで	3回以内 5回以内	600ℓ	1．花ぐされや発病果は伝染源になるので、見つけ次第摘みとり埋設する。 2．**コアオカスミカメによる被害が心配される場合、ウララDF2,000倍（前日まで、2回以内）を加用する。ただしポリネーション（交配用ミツバチ）回収後とする。**	／		
状況5月中～下旬	コスカシバ	スカシバコンL	10a当たり40～100本を設置	広域的に設置する			1．コスカシバの発生が多い園では設置する。	／		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
殺虫剤解禁後［カメムシ重点防除］	灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ	1．オーソサイド水和剤80 2．アグロスリン水和剤※1	800倍（125g） 1,000倍（100g）	3日前まで 3日前まで	5回以内 2回以内	600ℓ		／		
5月下旬［ウメシロカイガラムシ重点防除］	灰星病 カイガラムシ類 （ハダニ類）	1．スコア顆粒水和剤 2．トランスフォームフロアブル 生育が前進している場合には、5月下旬にダニオーテフロアブルを混用する	2,000倍（50g） 2,000倍（50cc）	前日まで 3日前まで	3回以内 3回以内	600ℓ	1．この回以降収穫を終えるまで展着剤を加用しない。 2．**早生種混植園ではトランスフォームフロアブルに替えてモスピラン顆粒水溶剤　2,000倍（前日まで、1回）を散布する。**	／		
6月上旬［灰星病重点防除］	灰星病 カメムシ類 ショウジョウバエ類 ハダニ類	1．パレード15フロアブル 2．テルスターフロアブル※1 3．ダニオーテフロアブル	2,000倍（50cc） 3,000倍（33.3cc） 2,000倍（50cc）	前日まで 前日まで 前日まで	2回以内 2回以内 1回	500ℓ	1．**雨よけ被覆後はハダニが多くなりやすいので、草刈り3～4日後にていねいに散布する。** 2．**5月下旬にダニオーテフロアブルを使用した場合は使用しない。**	／		
6月中旬［灰星病重点防除］	灰星病 炭そ病 黒斑病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	1．ナリアWDG 2．エクシレルSE	2,000倍（50g） 2,500倍（40cc）	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1．ナリアWDGはル レクチエの果実や、ピオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。 2．収穫の終わった早生品種にも散布すること。	／		
6月下旬［灰星病重点防除］	灰星病・黒斑病 ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ	1．オンリーワンフロアブル 2．スカウトフロアブル※1	2,000倍（50cc） 3,000倍（33.3cc）	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ		／		
晩生種中心 7月上旬	灰星病 オウトウショウジョウバエ	1．カナメフロアブル 2．テッパン液剤	4,000倍（25cc） 2,000倍（50cc）	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1．**この回以降、収穫が終わらない場合、オウトウショウジョウバエ対策として、ディアナWDG 1万倍（前日まで、2回以内）を散布する。**	／		
収穫直後［褐色せん孔病重点防除］［ハダニ重点防除］	せん孔病 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ アメリカシロヒトリ ハダニ類	1．アビオンE（展着剤） 2．オキシラン水和剤 3．ダイアジノン水和剤34 4．カネマイトフロアブル	1,000倍（100cc） 600倍（166.6g） 1,000倍（100g） 1,000倍（100cc）	－ 収穫終了後～落葉期まで 14日前まで 7日前まで	－ 3回以内 2回以内 1回	600ℓ	1．収穫の終わっていないおうとう、ももに飛散させない。	／		
前回散布14日以内（7月中～下旬）［灰星病重点防除］	せん孔病 （ハダニ類）	1．アビオンE（展着剤） 2．オキシラン水和剤	1,000倍（100cc） 600倍（166.6g）	－ 収穫終了後～落葉期まで	－ 3回以内	600ℓ	1．ハダニの発生がみられる場合は、アカリタッチ乳剤3,000倍（前日まで）を5～7日間隔で2回散布する。	／		
8月上～中旬［ウメシロカイガラムシ重点防除］［もも腐敗園］	せん孔病 カイガラムシ類幼虫 （ハダニ類）	1．ドライバー（展着剤） 2．オキシラン水和剤 3．アプロードフロアブル	1,000倍（100cc） 600倍（166.6g） 1,000倍（100cc）	－ 収穫終了後～落葉期まで 7日前まで	－ 3回以内 2回以内	600ℓ	1．他作目に飛散させない。 2．ハダニ類が見られる場合はコロマイト乳剤1,000倍（7日前まで、1回）を加用散布する。ももの登録は収穫7日前までなので、収穫期のももに飛散させない。 3．降雨が多い場合には、8月下旬にトレノックスフロアブル500倍（21日前まで、5回以内）を他樹種に飛散しないように散布する。	／		
	せん孔病 灰星病 ウメシロカイガラムシ	1．ドライバー（展着剤） 2．トップジンM水和剤 3．ダイアジノン水和剤34	1,000倍（100cc） 1,500倍（66.6g） 1,000倍（100g）	－ 14日前まで 14日前まで	－ 3回以内 2回以内					
9月上～中旬	褐色せん孔病	1．Zボルドー 2．クレフノン	500倍（200g） 100倍（1kg）	発病前～発病初期 －	－ －	600ℓ	1．Zボルドーには薬害防止のため必ずクレフノン100倍を加用する。 2．他樹種への飛散に注意する。	／		
状況休眠期	コスカシバ	1．ガットキラー乳剤	100倍（1ℓ）	休眠期（落葉後～萌芽前）	1回	400ℓ				
落葉後	越冬病害虫 樹脂細菌病	1．石灰硫黄合剤 又は、 ＩＣボルドー66D	10倍（10ℓ） 40倍（2.5kg）	発芽前 発病前～発病初期	－ －	400ℓ	1．野そ被害が心配される園では食害忌避としてフジワン粒剤200g/樹（根雪前、2回以内）を使用する。	／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
オーソサイド水和剤80、オキシラン水和剤などキャプタンを含む剤の総使用回数は合計で5回以内である。
オキシラン水和剤など有機銅を含む農薬の総使用回数は合計で3回以内である。
※1　合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。

生　食　モ　モ

川中島白桃	発芽	展葉	開花始	満開	落花	硬核期(満開50~75日)	収穫盛
	3.20	4.17	4.17	4.23	5.1	6.中～7.上	8.28

平年値（東根市羽入）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
発芽前まで（3月中旬）	カイガラムシ類 モモアカアブラムシ	水	（98ℓ）（石灰硫黄合剤を使う場合90ℓ）				1．落葉病防除の最も重要な時期なので、発芽前に遅れないように必ず散布する。散布ムラのため発病することが多いので枝先までむらなく散布する。			
		1．ハーベストオイル	50倍（2ℓ）	発芽前	－					
	縮葉病 せん孔細菌病	2．トレノックスフロアブル	500倍(200cc)	7日前まで	5回以内	300ℓ	2．トレノックスフロアブルに替えて、オキシンドー水和剤80 1,000倍（発芽前～開花直前まで、5回以内）でもよい。	／		
	越冬病害虫	3．アプロードフロアブル	1,000倍(100cc)	14日前まで	3回以内					
		又は、石灰硫黄合剤	10倍(10ℓ)	発芽前	－					
開花前	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り100本を設置				未結実園地にも設置する。詳細は2ページを参照			
開花直前（4月中旬）	せん孔細菌病	1．アビオン－E（展着剤）	2,000倍(50cc)	－	－	300ℓ	1．せん孔細菌病対策として開花直前に必ず散布する。 2．ICボルドー412に替えてクプロシールド 1,000倍でもよい。	／		
		2．ICボルドー412	30倍(3.3kg)	－	－					
		せん孔細菌病対策についてはp13の果樹の耕種的・物理的防除技術一覧を参照する。								
落花直後（4月下～5月上旬）	灰星病、うどんこ病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ハマキムシ類、シンクイムシ類	1．オンリーワンフロアブル	2,000倍(50cc)	前日まで	3回以内	300ℓ	1．他樹種へ飛散させない。 2．耐性菌出現防止のため、抗生物質の連用は避ける。	／		
		2．マイコシールド	2,000倍(50g)	21日前まで	5回以内					
		3．サムコルフロアブル10	5,000倍(20cc)	前日まで	2回以内					
		この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする								
5月中旬	灰星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ カメムシ類 （うどんこ病）	1．デランフロアブル	600倍(166.6cc)	7日前まで	4回以内	300ℓ	1．うどんこ病の発生が心配される場合、コナケシ顆粒水溶剤4,000倍（前日まで、2回以内）を加用する。	／		
		2．モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍(50g)	前日まで	3回以内					
状況 5月中～下旬	コスカシバ	スカシバコンL	10a当たり40～100本を設置				広域的に設置する。 詳細は2ページを参照	／		
5月下旬	せん孔細菌病 黒星病 アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類	1．ベンコゼブ水和剤	600倍(166.6g)	21日前まで	3回以内	300ℓ	1．**モモハモグリガの発生がみられる園地では、ダイアジノン水和剤34に替えてデミリン水和剤2,000倍（7日前まで、3回以内）を散布する。ただし、おうとうへの飛散に注意する。** 2．デランフロアブルはラ・フランスの登録が1,000倍なので飛散に注意する。果実に汚れが出る場合があるので乾きやすい時間帯に散布する。又、アプローチBIなどの浸達性展着剤を加用すると薬害が発生する場合があるので加用しない。 3．心折れ（ナシヒメシンクイ）の被害は見つけ次第除去し処分する。 4．おうとうの収穫が終わるまで飛散させない。 5．殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。	／		
		2．ダイアジノン水和剤34	1,000倍(100g)	前日まで	4回以内					
		3．モベントフロアブル	2,000倍(50cc)	7日前まで	3回以内					
		4．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
6月上旬	灰星病・黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ シンクイムシ類	1．トレノックスフロアブル	500倍(200cc)	7日前まで	5回以内	400ℓ		／		
		2．マイコシールド	2,000倍(50g)	21日前まで	5回以内					
		3．スカウトフロアブル※1	2,000倍(50cc)	前日まで	5回以内					
		4．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
6月中旬	黒星病　灰星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類 ハダニ類	1．デランフロアブル	600倍(166.6cc)	7日前まで	4回以内	400ℓ		／		
		2．スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(50g)	前日まで	3回以内					
		3．ダニオーテフロアブル	2,000倍(50cc)	前日まで	1回					
		4．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
6月下旬	せん孔細菌病 灰星病　黒星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1．デランフロアブル	600倍(166.6cc)	7日前まで	4回以内	400ℓ		／		
		2．エクシレルSE	5,000倍(20cc)	前日まで	3回以内					
		3．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
7月上旬	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 アブラムシ類	1．トレノックスフロアブル	500倍(200cc)	7日前まで	5回以内	400ℓ		／		
		2．ダイアジノン水和剤34	1,000倍(100g)	前日まで	4回以内					
		3．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
7月中旬	灰星病 せん孔細菌病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類	1．ベランティーフロアブル	8,000倍(12.5cc)	前日まで	3回以内	400ℓ	1．ハダニのみられる園はコロマイト乳剤1,000倍（7日前まで、1回）を散布する。ただし、収穫前日数に注意する。	／		
		2．バリダシン液剤5	500倍(200cc)	7日前まで	4回以内					
		3．モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍(50g)	前日まで	3回以内					
		4．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
状況 7月下旬	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り50本を設置				1．高温で推移した年で晩生種を栽培している園では、追加設置する			
7月下旬～8月上旬	灰星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類	1．ベルクートフロアブル	1,500倍(66.6cc)	前日まで	3回以内	400ℓ	1．ベルクートフロアブルは、缶桃種、ル レクチェに薬害のおそれがあるので、パレード15フロアブル2,000倍（前日まで、2回以内）に替えて使用する。 2．カイガラムシの見られる園ではコルト顆粒水和剤2,000倍前日まで、3回以内）を単用散布する。ただしルレクチェの果実に薬害を生ずることがあるので飛散させない。	／		
		2．テルスターフロアブル※1	3,000倍(33.3cc)	前日まで	2回以内					
		3．マイトコーネフロアブル	1,000倍(100cc)	前日まで	1回					
		4．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
8月中旬	灰星病、炭そ病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 アブラムシ類 モモハモグリガ （ナミハダニ）	1．オンリーワンフロアブル	2,000倍(50cc)	前日まで	3回以内	400ℓ	1．ナミハダニのみられる園はコテツフロアブル2,000倍（前日まで、2回）を加用する。	／		
		2．バリアード顆粒水和剤	2,000倍(50g)	前日まで	3回以内					
		3．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
8月下旬	灰星病、炭そ病 黒星病 ホモプシス腐敗病 モモハモグリガ ハマキムシ類・シンクイムシ類	1．ナリアWDG	2,000倍(50g)	前日まで	2回以内	400ℓ	1．ナリアWDGはル レクチエの果実や、ピオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。 2．収穫前に除袋する品種は、除袋直後に防除を行う。	／		
		2．ヨーバルフロアブル	5,000倍(20cc)	前日まで	2回以内					
		3．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
9月上旬	灰星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ・アブラムシ類	1．パレード15フロアブル	2,000倍(50cc)	前日まで	2回以内	400ℓ		／		
		2．スカウトフロアブル※1	2,000倍(50cc)	前日まで	5回以内					
		3．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
9月中旬（晩生種のみ）	灰星病、炭そ病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1．ナリアWDG	2,000倍(50g)	前日まで	2回以内	400ℓ		／		
		2．ディアナWDG	10,000倍(10g)	前日まで	2回以内					
		3．（バイカルティ）※2	1,000倍(100g)	－	－					
収穫直後 せん孔細菌病重点防除 中生りんご 西洋なし 果実 園（収穫後）	せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ	1．アビオン－E（展着剤）	2,000倍(50cc)	－	－	400ℓ	1．**多品種により散布ができない場合、収穫した樹にできるだけ早く手散布にて対応する。** 2．**次年度のせん孔細菌病対策としてICボルドー412は2週間間隔で必ず3回以上散布する。**スミチオン乳剤を加用後、直ちに散布する。隣接する作物に付着すると汚れるので注意する。	／		
		2．ICボルドー412	30倍(3.3kg)	－	－					
		3．スミチオン乳剤	1,000倍(100cc)	3日前まで	6回以内					
	せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1．ICボルドー412	30倍(3.3kg)	－	－	400ℓ		／		
		2．ダントツ水溶剤	2,000倍(50g)	7日前まで	3回以内					
前回散布から2週間後	せん孔細菌病	1．アビオン－E（展着剤）	2,000倍(50cc)	－	－	400ℓ	3．**ICボルドー412に替えて、クプロシールド1,000倍にクレフノン100倍を加用して散布しても良い。**	／		
		2．ICボルドー412	30倍(3.3kg)	－	－					
落葉直前	せん孔細菌病	1．アビオン－E（展着剤）	2,000倍(50cc)	－	－	400ℓ		／		
		2．ICボルドー412	30倍(3.3kg)	－	－					
状況 休眠期	コスカシバ	1．ガットキラー乳剤	100倍(1ℓ)	休眠期（落葉後～萌芽前）	1回	400ℓ		／		
休眠期	越冬病害虫	1．石灰硫黄合剤	10倍(10ℓ)	発芽前	－	400ℓ	1．越冬病害虫対策と樹体保護の為に散布する。	／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。

※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。　※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

西洋なし（ラ・フランス）

発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
3.24	4.17	4.22	4.25	5.2	10.11

平年値（東根市営団）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
休眠期	胴枯病	1．バッチレート	原液	剪定時及び病患部削り取り直後	塗布は3回以内		1．輪紋病のいぼ皮病斑や胴枯病斑が枝幹部にあるので、粗皮削りを必ず行い、病斑部を削り取り、胴枯病の病斑部へ塗布する。又、削り取りができない場合でも病斑部への塗布は必ず行う。 2．胴枯病の進行した枝は切除し、園外に持ち出し処分する。	／		
発芽前（3月下旬）	ハダニ類 越冬病害虫 輪紋病　胴枯病 カイガラムシ類幼虫	水 1．ハーベストオイル 2．石灰硫黄合剤 又は、 トップジンM水和剤 3．アプロードフロアブル	（98ℓ） （石灰硫黄合剤1使用場合50倍） 50倍（2ℓ） 10倍（10ℓ） 1,000倍（100g） 1,000倍（100cc）	 発芽前 発芽前 前日まで 30日前まで	 － － 6回以内 2回以内	300ℓ	1．胴枯病の見られる園は石灰硫黄合剤を使用する。先にハーベストオイルを溶かしてから石灰硫黄合剤を混用し直ちに散布する。	／		
開花直前（4月中～下旬）	黒斑細菌病 心腐れ症（胴枯病菌） シンクイムシ類 ハマキムシ類	1．デランフロアブル 2．サムコルフロアブル10	1,000倍（100cc） 5,000倍（20cc）	60日前まで 前日まで	4回以内 3回以内	300ℓ	1．デランフロアブルは、散布時間により薬斑が出る場合があるので乾きやすい時に散布する。	／		
4月下旬（1回目）	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り100本を設置				詳細は2ページを参照			
満開10日後（5月上旬）	黒斑細菌病 心腐れ症（胴枯病菌） （アブラムシ類） （シンクイムシ類） （ハマキムシ類）	1．デランフロアブル	1,000倍（100cc）	60日前まで	4回以内	450ℓ	1．アブラムシ類発生園ではウララDF 2,000倍（収穫14日前まで、2回以内）を加用する。 2．シンクイムシ類、ハマキムシ類発生園ではフェニックスフロアブル 4,000倍（前日まで、2回以内）を加用する。 3．胴枯病は、この時期から胞子の飛散が始まるので防除間隔をあけないよう注意する。	／		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
5月中旬 輪紋病・胴枯病の重点防除	輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 カメムシ類	1．オキシラン水和剤 2．トップジンM水和剤 3．ダントツ水溶剤 4．（バイカルティ）※2	600倍（166.6g） 1,500倍（66.6g） 2,000倍（50g） 1,000倍（100g）	21日前まで 前日まで 前日まで －	9回以内 6回以内 3回以内 －	450ℓ	1．胴枯病の萎凋枯死花そうや、枯死枝を除去し、焼却する。胴枯病患部の削り取り痕や太枝の切り口にバッチレート（せん定時及び患部削り取り直後、3回以内）を塗布する。	／		
5月下旬 輪紋病・胴枯病の重点防除	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類	1．カナメフロアブル 2．ダイアジノン水和剤34	4,000倍（25cc） 1,000倍（100g）	前日まで 14日前まで	3回以内 6回以内	450ℓ		／		
6月上旬 輪紋病・胴枯病の重点防除	輪紋病　胴枯病 アブラムシ類	1．スクレアフロアブル 2．ウララDF 3．（バイカルティ）※2	3,000倍（33.3cc） 2,000倍（50g） 1,000倍（100g）	前日まで 14日前まで －	3回以内 2回以内 －	450ℓ	1．黒斑細菌病の果実や枝は徹底して切除して処分する。 2．シンクイムシ類発生園ではウララDFに替えてスカウトフロアブル※1 2,000倍（前日まで、5回以内）を散布する。	／		
6月中旬 輪紋病・胴枯病の重点防除	輪紋病・胴枯病 シンクイムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類 ハダニ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．トップジンM水和剤 3．モスピラン顆粒水溶剤 4．ダニコングフロアブル 5．（バイカルティ）※2	2,000倍（50cc） 1,500倍（66.6g） 2,000倍（50g） 2,000倍（50cc） 1,000倍（100g）	－ 前日まで 前日まで 前日まで －	－ 6回以内 3回以内 1回 －	500ℓ	1．この時期より雨が多い場合は輪紋病の感染が多くなるので散布間隔をあけないように注意する。 2．カイガラムシの被害が発生している園地ではモベントフロアブル 2,000倍（14日前まで、3回以内）を散布する。ただし、おうとうへの飛散に注意する。	／		
おうとう隣接園	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類 ハダニ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．インダーフロアブル 3．モスピラン顆粒水溶剤 4．ダニコングフロアブル	2,000倍（50cc） 5,000倍（20cc） 2,000倍（50g） 2,000倍（50cc）	－ 7日前まで 前日まで 前日まで	－ 3回以内 3回以内 1回			／		
6月下旬 輪紋病・胴枯病の重点防除	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．オキシラン水和剤 3．テルスターフロアブル※1 4．コルト顆粒水和剤 5．（バイカルティ）※2	2,000倍（50cc） 600倍（166.6g） 3,000倍（33.3cc） 3,000倍（33.3g） 1,000倍（100g）	－ 21日前まで 前日まで 前日まで －	－ 9回以内 2回以内 3回以内 －	500ℓ	1．オキシラン水和剤は、おうとうへの飛散に注意する。 2．降雨前防除を基本とするが、強い雨で薬液が乾く前に流された時は再散布する。 3．この時期は、特に適量散布に留意する。 4．コルト顆粒水和剤はル レクチェの果実に薬害が生じるおそれがあるので、混植園ではトランスフォームフロアブル2,000倍（前日まで、3回以内）に替えて散布する。	／		
おうとう隣接園	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．パレード15フロアブル 3．テルスターフロアブル 4．コルト顆粒水和剤	2,000倍（50cc） 2,000倍（50cc） 3,000倍（33.3cc） 3,000倍（33.3g）	－ 前日まで 前日まで 前日まで	－ 2回以内 2回以内 3回以内			／		
7月上旬 輪紋病・胴枯病の重点防除	輪紋病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫	1．アビオン－E（展着剤） 2．オキシラン水和剤 3．ダイアジノン水和剤34 4．（バイカルティ）※2	2,000倍（50cc） 600倍（166.6g） 1,000倍（100g） 1,000倍（100g）	－ 21日前まで 14日前まで －	－ 9回以内 6回以内 －	600ℓ	1．シンクイムシ類の発生が見られる園地では防除間隔があかないように注意する。 2．ナリアWDGはル レクチェの果実に薬害が生じるおそれがあるので、混植園ではファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍（前日まで、3回以内）に替えて散布する。 3．降雨が続く場合や強い降雨の後は、次回散布まで間隔をあけない。	／		
おうとう隣接園	輪紋病 シンクイムシ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．ナリアWDG 3．ダントツ水溶剤	2,000倍（50cc） 2,000倍（50g） 2,000倍（50g）	－ 前日まで 前日まで	－ 3回以内 3回以内			／		
7月中旬 輪紋病・胴枯病の重点防除	輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 カイガラムシ類 ハダニ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．オキシラン水和剤 3．オリオン水和剤40 4．マイトコーネフロアブル 5．（バイカルティ）※2	2,000倍（50cc） 600倍（166.6g） 1,000倍（100g） 1,000倍（100cc） 1,000倍（100g）	－ 21日前まで 3日前まで 前日まで －	－ 9回以内 2回以内 1回 －	600ℓ	1．カメムシ類の発生園ではオリオン水和剤40に替えて、テルスター水和剤※1　1,000倍（前日まで、2回以内）を散布する。	／		
7月下旬（2回目）		ナシヒメコン	10a当り50本を追加設置				詳細は2ページを参照			
7月下旬 シンクイムシ重点防除	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類 カメムシ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．トップジンM水和剤 3．オキシラン水和剤 4．モスピラン顆粒水溶剤 5．（バイカルティ）※2	2,000倍（50cc） 1,500倍（66.6g） 600倍（166.6g） 2,000倍（50g） 1,000倍（100g）	－ 前日まで 21日前まで 前日まで －	－ 6回以内 9回以内 3回以内 －	600ℓ	1．早生種（オーロラ等）はオキシラン水和剤に替えてオーソサイド水和剤80　600倍（3日前まで、9回以内）を使用する。なお、りんご以外への飛散に注意する。	／		
8月上旬 シンクイムシ重点防除	輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 （ハダニ類）	1．アビオン－E（展着剤） 2．オキシンドー水和剤80 3．バイスロイドEW※1	2,000倍（50cc） 1,400倍（71.4g） 2,000倍（50cc）	－ 21日前まで 7日前まで	－ 9回以内 2回以内	600ℓ	1．早生種（オーロラ等）はオキシンドー水和剤80に替えてオーソサイド水和剤80　600倍（3日前まで、9回以内）を使用する。なお、りんご以外への飛散に注意する。 2．ナシヒメシンクイは桃、スモモなどの心折れが見られる場合は特に注意し、8月から9月中旬まで散布間隔を10日以上開けないようにする。 3．ハダニ類が発生した場合はコロマイト乳剤1,000倍（前日まで、1回）を単用散布する。ももの登録は収穫7日前までなので、収穫期のももに飛散させない。 4．ベルクート水和剤は缶桃種、ル レクチエに薬害のおそれがあるので飛散させない。	／		
もも・りんご隣接園	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．ベルクート水和剤 3．アーデントフロアブル※1	2,000倍（50cc） 1,000倍（100g） 2,000倍（50cc）	－ 14日前まで 前日まで	－ 5回以内 3回以内			／		
8月中旬 シンクイムシ重点防除	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．フリントフロアブル25 3．バリアード顆粒水和剤	2,000倍（50cc） 2,000倍（50cc） 2,000倍（50g）	－ 前日まで 前日まで	－ 4回以内 3回以内	600ℓ	1．カイガラムシの被害が発生している園地ではコルト顆粒水和剤3,000倍（前日、3回以内）を混用する。ル レクチエに薬害のおそれがあるので飛散させない。	／		
8月下旬 シンクイムシ重点防除	輪紋病、胴枯病 シンクイムシ類	1．アビオン－E（展着剤） 2．トップジンM水和剤 3．エクシレルSE	2,000倍（50cc） 1,500倍（66.6g） 5,000倍（20cc）	－ 前日まで 前日まで	－ 6回以内 3回以内	600ℓ	1．早生種（オーロラ等）、中生種（バラード等）はトップジンM水和剤に替えてオーソサイド水和剤80　600倍（3日前、9回以内）を使用する。なお、他樹種への飛散に注意する。	／		
9月上旬 シンクイムシ重点防除	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1．オーソサイド水和剤80 2．アグロスリン水和剤※1	600倍（166.6g） 1,000倍（100g）	3日前まで 前日まで	9回以内 3回以内	600ℓ	1．ナシヒメシンクイの発生、産卵時期なので、散布むらのないようにていねいに散布する。	／		
もも隣接園	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1．ファンタジスタ顆粒水和剤 2．アグロスリン水和剤※1	3,000倍（33.3g） 1,000倍（100g）	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内			／		
9月中旬 シンクイムシ重点防除	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1　ストライド顆粒水和剤 2．バリアード顆粒水和剤	1,500倍（66.6g） 2,000倍（50g）	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	600ℓ	1．薬害防止の為、高温時（25度以上）の散布は避ける。 2．ストライド顆粒水和剤は日本なしに登録がないので飛散させない。	／		
9月下旬 シンクイムシ重点防除	輪紋病　胴枯病 シンクイムシ類、ハマキムシ類	1．スクレアフロアブル 2．ヨーバルフロアブル	3,000倍（33.3cc） 5,000倍（20cc）	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	600ℓ		／		
収穫後	黒斑細菌病	1．アビオン－E（展着剤） 2．ICボルドー412	2,000倍（50cc） 30倍（3.3kg）	－ －	－ －	600ℓ	1．収穫が終わっていない他樹種へ飛散させない。	／		
落葉後	越冬病害虫	1．石灰硫黄合剤	10倍（10ℓ）	発芽前	－	300ℓ		／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。　オーソサイド水和剤80、キャプレート水和剤、オキシラン水和剤などキャプタンを含む剤の使用基準は合計で9回以内である。　オキシラン水和剤、オキシンドー水和剤80、キノンドーフロアブルなど有機銅を含む剤の使用基準は合計で9回以内である。※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。
※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

黒星病特別防除　りんご

ふじ

発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
3.30	4.9	4.28	5.2	5.8	11.21

平年値（東模市神町）北村山農業技術普及課調査

散布時期		適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
休眠期	黒星病重点防除	腐らん病 黒星病 ハダニ類 カイガラムシ類幼虫	水 1．トップジンM水和剤 2．ベルクート水和剤 3．ハーベストオイル 4．アプロードフロアブル	98ℓ 1,000倍(100g) 2,000倍(50g) 50倍(2ℓ) 1,000倍(100cc)	 前日まで 前日まで 芽出し直前直後 30日前	 6回以内 6回以内 － 2回以内	400ℓ		／		
発芽10日後 展葉期（頂芽の葉が2～3枚展葉した頃）		黒星病 モニリア病 （褐斑病、炭そ病、斑点落葉病）	1．ストライド顆粒水和剤	1,500倍(66.6g)	開花前まで	2回以内	400ℓ	1．休眠期防除を行えなかった園地ではアプロードフロアブル1,000倍（30日前まで、2回以内）を混用散布する。	／		
展葉10日後 （4月中旬～下旬）		黒星病、褐斑病 炭そ病（輪紋病） 斑点落葉病 モニリア病	1．ジマンダイセン水和剤	600倍(166.6g)	30日前まで	3回以内	400ℓ		／		
開花直前		黒星病 うどんこ病 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1．カナメフロアブル 2．デランフロアブル 3．サムコルフロアブル10	4,000倍(25cc) 2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc)	前日まで 60日前まで 前日まで	3回以内 3回以内 3回以内	400ℓ		／		
前回散布後 10日以内		黒星病 斑点落葉病 モニリア病 褐斑病、赤星病	1．ミギワ20フロアブル 2．ジマンダイセン水和剤 3．（バイカルティ）※2	4,000倍(25cc) 600倍(166.6g) 1,000倍(100g)	前日まで 30日前まで －	3回以内 3回以内 －	400ℓ	1．黒星病の初発時期なのでこの回以降10日間以上防除間隔をあけない。 2．この回以降6月上旬までは、さび果や生理落花などが発生しやすいので各種乳剤は使用しない。 3．品質向上のためバイカルティを加用する。 4．薬害防止のため、高温時の散布は避ける。	／		
前回散布後 10日以内		黒星病、褐斑病、斑点落葉病 ハマキムシ類 キンモンホソガ （アプラムシ類）	1．デランフロアブル 2．フェニックスフロアブル 3．（バイカルティ）※2	2,000倍(50cc) 4,000倍(25cc) 1,000倍(100g)	60日前まで 前日まで －	3回以内 2回以内 －	400ℓ	1．アプラムシ類の発生園ではウララDF2,000倍（14日前まで、2回以内）を加用する。	／		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする											
前回散布後 10日以内		腐らん病、モニリア病 輪紋病、黒星病 褐斑病、黒点病 斑点落葉病、炭そ病 カメムシ類 アプラムシ類 キンモンホソガ リンゴワタムシ	1．トップジンM水和剤 2．ファンタジスタ顆粒水和剤 3．ダントツ水溶剤 4．（バイカルティ）※2	1,500倍(66.6g) 3,000倍(33.3g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで －	（散布は6回以内） 3回以内 3回以内 －	500ℓ	1．高温時や薬液が乾きにくい夕方などの散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2．リンゴワタムシが発生している園ではていねいに散布する。	／		
			おうとうの隣接園では、以後おうとうの収穫が終わるまで展着剤を加用しない。								
6月上旬	斑点落葉病重点防除	モニリア病 黒星病 黒点病 斑点落葉病 うどんこ病 カイガラムシ類、アプラムシ類 リンゴワタムシ	1．ベランティーフロアブル 2．トレノックスフロアブル 3．トランスフォームフロアブル 4．（バイカルティ）※2	8,000倍(12.5cc) 500倍(200cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	14日前まで 30日前まで 前日まで －	3回以内 5回以内 3回以内 －	500ℓ	1．黒点病防除の重要な時期である。	／		
	袋かけ開始	褐斑病 黒星病 斑点落葉病 カメムシ類、キンモンホソガ、シンクイムシ類	1．アクサーフロアブル 2．テルスターフロアブル※1	2,000倍(50cc) 3,000倍(33.3cc)	14日前まで 前日まで	3回以内 1回					
6月中旬		黒星病、褐斑病 炭そ病、腐らん病 斑点落葉病 輪紋病 シンクイムシ類、アプラムシ類 カイガラムシ類	1．ナリアWDG 2．バリアード顆粒水和剤 3．コルト顆粒水和剤 4．（バイカルティ）※2	2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 3,000倍(33.3g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで －	3回以内 3回以内 3回以内 －	500ℓ	1．ナリアWDGは西洋なしのル レクチエの果実や、ぶどうピオーネの葉に薬害を生じることがあるので注意する。 2．コルト顆粒水和剤は西洋梨のルレクチェの果実に薬害を生じる事があるので注意する。	／		
6月下旬		斑点落葉病、黒星病 褐斑病、輪紋病 アプラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハダニ類	1．パレード15フロアブル 2．スカウトフロアブル※1 3．ダニオーテフロアブル	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで 前日まで	2回以内 5回以内 1回	500ℓ	1．殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。 2．ダニ剤の効果を持続させるため、次回散布まで10日あける。 3．カイガラムシの被害が発生している園地ではモベントフロアブル2,000倍（14日前、3回以内）を散布する。	／		
7月上旬	褐斑病重点防除	輪紋病 斑点落葉病 黒星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1．オキシラン水和剤 2．ユニックス顆粒水和剤47 3．エクシレルSE 4．（バイカルティ）※2	700倍(142.8g) 1,000倍(100cc) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g)	14日前まで 14日前まで 前日まで －	4回以内 4回以内 3回以内 －	500ℓ	1．降雨の多い場合は散布間隔をあけない。 2．ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍（前日まで）を混用する。 3．降雨が続く場合には8月下旬までアビオン-E 2,000倍を加用してもよい。 4．ももへの飛散に注意する。	／		
7月中～下旬		黒星病 斑点落葉病、輪紋病 シンクイムシ類 アプラムシ類 キンモンホソガ カイガラムシ類 ナミハダニ、リンゴハダニ	1．オキシラン水和剤 2．オリオン水和剤40 3．マイトコーネフロアブル	700倍(142.8g) 1,000倍(100g) 1,000倍(100cc)	14日前まで 前日まで 前日まで	4回以内 2回以内 1回	500ℓ	1．前回の殺ダニ剤散布から1カ月以上間隔を開けない。 2．ハダニ類の発生がみられる園地ではアカリタッチ乳剤2,000倍（前日まで）を混用する。 3．キンモンホソガの発生がみられる園ではデミリン水和剤2,000倍（30日前まで、3回以内）を単用散布する。ただし、早生種では収穫前日数に注意する。 4．日焼け軽減のため、9月上中旬までサンバリア1,000倍を混用しても良い。	／		
状況 7月下旬		褐斑病 斑点落葉病	1．オンリーワンフロアブル	2,000倍(50cc)	7日前まで	3回以内		1．降雨が続く場合に散布する。	／		
状況 7月下旬		カメムシ類	1．スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(50g)	前日まで	3回以内		1．カメムシの発生がみられる場合に散布する。	／		
8月上旬		輪紋病、すす点病 すす斑病 黒星病、褐斑病 斑点落葉病 炭そ病 カメムシ類、シンクイムシ類 キンモンホソガ、ハダニ類	1．ベルクート水和剤 2．オーソサイド水和剤80 3．アーデントフロアブル※1	1,000倍(100g) 800倍(125g) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで 前日まで	3回以内 6回以内 3回以内	500ℓ	1．高温時や薬液が乾きにくい時間帯（極早朝、降雨後の翌朝、夕方など）の散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2．ハダニ類が発生した場合はコロマイト乳剤1,000倍（前日まで、1回）を単用散布する。ももの登録は収穫7日前までなので、収穫期のももに飛散させない。	／		
8月中～下旬		輪紋病、すす点病 すす斑病 黒星病、褐斑病 斑点落葉病 炭そ病 アプラムシ類、シンクイムシ類	1．オーソサイド水和剤80 2．モスピラン顆粒水溶剤	800倍(125g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	6回以内 3回以内	500ℓ	1．次回の散布間隔をあけすぎない。 2．ハダニ類が見られる園地では、アカリタッチ乳剤2,000倍（前日まで）を1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布する。 3．カイガラムシの被害が発生している園地ではコルト顆粒水和剤3,000倍（前日、3回以内）を混用する。ルレクチエに薬害のおそれがあるので飛散させない。	／		
9月上旬 （中・晩生種のみ）		斑点落葉病 黒星病、輪紋病 すす点病、褐斑病 すす斑病 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	1．ダイパワー水和剤 2．ロディー水和剤※1	1,000倍(100g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1．例年すす点病のみられる園ではダイパワー水和剤に替えてツインバリアー水和剤1,000倍（前日まで、3回以内）を使用する。ただし、他樹種へ飛散させない。	／		
9月中旬～下旬 （晩生種のみ）		斑点落葉病 炭そ病 褐斑病 シンクイムシ類	1．ストライド顆粒水和剤 2．ヨーバルフロアブル	1,500倍(66.6g) 10,000倍(10cc)	開花から前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1．晩生種のみ散布する。 2．薬害防止のため高温時（25度以上）の散布をさける。 3．西洋なし以外への飛散に注意する。	／		
状況 10月上旬		斑点落葉病 炭そ病 褐斑病 カメムシ類 シンクイムシ類	1．ストライド顆粒水和剤 2．スタークル顆粒水溶剤	1,500倍(66.6g) 2,000倍(50g)	開花から前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1．温暖で生育した場合に散布する。 2．薬害防止のため高温時（25度以上）の散布をさける。	／		
収穫後 （落葉期前まで）		腐らん病	1．アビオン－E（展着剤） 2．トップジンM水和剤 又は 石灰硫黄合剤	2,000倍(50cc) 1,000倍(100g) 10倍(10ℓ)	－ 前日まで 休眠期	－ 6回以内 －	400ℓ	1．腐らん病防除のため必ず散布する。 2．アビオン-E等の固着性展着剤を加用すると流亡防止効果がある。	／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。　オーソサイド水和剤、オキシラン水和剤などキャプタン剤の使用基準は合計で6回以内である。　速度を上げて散布量を減らすことは絶対にしない。薬液が十分にかかる様に、剪定や間伐で通風採光を良くする。散布時期は生態に合せる。中山間地は平地より数日遅れる。

※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。　※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

すもも

大石早生	発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
	3.26	4.15	4.12	4.17	4.28	7.3

平年値（園芸農業研究所）

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
3月下旬（発芽前まで）	カイガラムシ類 ふくろみ病 越冬病害虫 ふくろみ病 ハダニ類	水 1．ハーベストオイル 2．トレノックスフロアブル 又は、 石灰硫黄合剤	（98ℓ） （石灰硫黄合剤を使う場合90ℓ） 50倍（2ℓ） 500倍（200cc） 10倍（10ℓ）	 発芽前 14日前まで 発芽前	 － 3回以内 －	300ℓ	1．発芽前に遅れないように必ず散布する。散布ムラのため発病することが多いので枝先までむらなく散布する。幼木にも必ず散布する。	／		
4月中旬 開花直前	かいよう病 黒斑病	1．ICボルドー412	30倍（3.3kg）	－	－	300ℓ		／		
4月中～下旬	スモモヒメシンクイ ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り100本を設置				未結実園地にも設置する。 詳細は2ページを参照			
5月上旬 落花直後	灰星病	1．インダーフロアブル	5,000倍（20cc）	前日まで	4回以内	300ℓ	1．散布は遅れないようにする。 2．ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘みとり、土中に深く埋める。	／		
	この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする									
5月中旬	灰星病 黒斑病 カメムシ類 アブラムシ類	1．フルーツセイバー 2．マイコシールド 3．ダントツ水溶剤	1,500倍（66.6cc） 2,000倍（50g） 2,000倍（50g）	前日まで 21日前まで 3日前まで	3回以内 3回以内 3回以内	400ℓ		／		
5月下旬	灰星病 シンクイムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類幼虫	1．ベルクート水和剤 2．アグロスリン水和剤 3．アプロードフロアブル	1,000倍（100g） 1,000倍（100g） 1,000倍（100cc）	3日前まで 前日まで 14日前まで	3回以内 2回以内 2回以内	400ℓ	1．おうとうへの飛散に注意する。	／		
6月中旬	灰星病 黒星病 ふくろみ病 シンクイムシ類	1．ナリアWDG 2．エクシレルSE	2,000倍（50g） 2,500倍（40cc）	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	400ℓ	1．灰星病の被害果は見つけ次第摘みとり、土中深く埋める。 2．ナリアWDGはル レクチエの果実やビオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。	／		
6月下旬	灰星病 シンクイムシ類	1．オンリーワンフロアブル 2．テルスターフロアブル※1	2,000倍（50cc） 3,000倍（33.3cc）	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	400ℓ		／		
7月上～中旬	灰星病 カイガラムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類 （ハダニ類）	1．パスワード顆粒水和剤 2．モスピラン顆粒水溶剤	1,500倍（66.6g） 2,000倍（50g）	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	400ℓ	1．パスワード顆粒水和剤を散布する場合は、おうとうに汚れが残ることがある。又、りんご、なしに飛散させない。 2．ハダニ類の発生が多い園ではダニゲッターフロアブル2,000倍（前日まで、1回）を混用散布する。	／		
7月下旬	灰星病 シンクイムシ類 アブラムシ類	1．インダーフロアブル 2．スカウトフロアブル※1	5,000倍（20cc） 2,000倍（50cc）	前日まで 前日まで	4回以内 3回以内	400ℓ		／		
8月上～中旬	灰星病、黒星病 カイガラムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類	1．ファンタジスタ顆粒水和剤 2．モスピラン顆粒水溶剤	3,000倍（33.3g） 2,000倍（50g）	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	400ℓ	1．灰星病の被害果は見つけ次第摘みとり、土中に深く埋める。	／		
8月下旬（晩生種）	灰星病 黒星病 シンクイムシ類	1．パレード15フロアブル 2．ディアナWDG	2,000倍（50cc） 5,000倍（20g）	前日まで 前日まで	2回以内 2回以内	400ℓ		／		
9月上旬（晩生種）	シンクイムシ類	1．エクシレルSE	2,500倍（40cc）	前日まで	3回以内	400ℓ		／		
収穫後	黒斑病	1．アビオン－E（展着剤） 2．ICボルドー412	2,000倍（50cc） 30倍（3.3kg）	－ －	－ －	400ℓ		／		
休眠期	コスカシバ	1．ガットキラー乳剤	100倍（1ℓ）	休眠期（落葉後～萌芽前）	1回	400ℓ	1．樹幹部及び主枝に十分散布する。	／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。

※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。

ぶどう（大粒種）（露地、雨よけ）

シャインマスカット	発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
	4.28	5.3	6.10	6.16	6.19	10.11

平年値（東根市若木）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
3月下旬（休眠期）	黒とう病、晩腐病、（ブドウトラカミキリ）	1．デランフロアブル	200倍（500cc）	休眠期	1回	300ℓ	1．休眠期の防除は、必ず粗皮削りをしてから枝の先まで洗うようにていねいに散布する。 2．前年の房の取り残し部分及び巻きひげなどの除去は晩腐病防除に重要であるから徹底する。 3．前年ブドウトラカミキリの秋散布を実施しない園では、この時期トラサイドA乳剤　300倍（発芽前（休眠期）、2回以内）を加用する。また、周辺の訪花昆虫保護のため3月下旬までに散布を終えること。 4．樹幹害虫対策　ロビンフッド（前日まで、5回以内）を食入孔にノズルを差し込み噴射する。	／		
4月中旬（発芽前）	ハダニ類、サビダニ類	1．石灰硫黄合剤 又は、 クムラス	20倍（5ℓ） 300倍（333g）	発芽前 －	－ －	300ℓ	1．他樹種に飛散させない。	／		
5月上旬（展葉2～3枚）黒とう病重点防除	黒とう病、べと病、晩腐病、褐斑病、（ツマグロアオカスミカメ）	1．ホライズンドライフロアブル 2．ジマンダイセン水和剤	2,500倍（40g） 1,000倍（100g）	21日前まで 45日前まで	3回以内 2回以内	200ℓ	1．ホライズンドライフロアブルは小豆大以降は散布しない。又、他樹種に飛散させない。 2．ツマグロアオカスミカメの発生が心配される園地では、ウララDF 2,000倍（開花前まで、2回以内）を散布する。	／		
5月中旬	黒とう病、べと病	1．デランフロアブル	1,000倍（100cc）	落弁期まで（但し、収穫75日前まで）	2回以内	200ℓ		／		
	この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする									
5月下旬	べと病、フタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ	1．リドミルゴールドMZ 2．アグロスリン水和剤※1	1,000倍（100g） 1,000倍（100g）	45日前まで 21日前まで	2回以内 5回以内	200ℓ	1．リドミルゴールドMZは他樹種に飛散させない。	／		
状況	スカシバ類	1．パダンSG水溶剤	1,500倍（66.6g）	14日前まで	2回以内	200ℓ	1．散布は樹幹散布とし、他樹種に飛散させない。	／		
開花直前（6月上旬）	べと病 黒とう病、灰色かび病、うどんこ病 ハダニ類	1．ランマンフロアブル 2．オンリーワンフロアブル 3．ダニオーテフロアブル	2,000倍（50cc） 2,000倍（50cc） 2,000倍（50cc）	14日前まで 前日まで 前日まで	3回以内 3回以内 1回	300ℓ	1．コウモリガの発生が見られる園では樹幹周辺を清掃し、捕殺する。 2．着粒不良の恐れがあるので、満開期の散布は避ける。 3．ランマンフロアブルは他樹種に飛散させない。	／		
落花直後（6月中～下旬）	黒とう病、褐斑病、さび病、灰色かび病 べと病 チャノキイロアザミウマ、ハスモンヨトウ、ブドウサビダニ	1．パレード15フロアブル 2．ベトファイター顆粒水和剤 3．グレーシアフロアブル	2,000倍（50cc） 2,000倍（50g） 4,000倍（25cc）	7日前まで 30日前まで 7日前まで	2回以内 3回以内 2回以内	300ℓ	1．前年晩腐病の発生が見られた園では、本剤散布後直ちに笠掛をする。 2．果粉溶脱防止のため、大きさが小豆大までとする。又、浸透性のある展着剤は使用しない。 3．他樹種に飛散させない。	／		
7月上旬	べと病 アザミウマ類、コガネムシ類	1．ランマンフロアブル 2．アーデントフロアブル※1	2,000倍（50cc） 2,000倍（50cc）	14日前まで 前日まで	3回以内 4回以内	300ℓ	**1．ランマンフロアブルは他樹種に飛散させない。** 2．晩腐病、灰色かび病の発生が見られる園ではファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍（14日前まで、3回以内）を混用する。	／		
7月中旬 アザミウマ重点防除	褐斑病・すす点病、晩腐病、灰色かび病、黒とう病、うどんこ病、さび病 カメムシ類、コガネムシ類、チャノキイロアザミウマ、（ハダニ類）、（べと病）	1．オンリーワンフロアブル 2．テッパン液剤	2,000倍（50cc） 2,000倍（50cc）	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	250ℓ	1．ハダニの発生がみられる園ではコロマイト水和剤2,000倍（7日前まで、2回以内）を加用する。 2．降雨が続く場合にはべと病対策として、エトフィンフロアブル 1,000倍（7日前まで、4回以内）を散布する。	／		
7月下旬 アザミウマ重点防除	晩腐病、黒とう病、灰色かび病、さび病、アザミウマ類、コガネムシ類、ハダニ類、フタテンヒメヨコバイ	1．ファンタジスタ顆粒水和剤 2．アーデントフロアブル※1	3,000倍（33.3g） 2,000倍（50cc）	14日前まで 前日まで	3回以内 4回以内	250ℓ	**1．この回以降デラウェアなどに飛散しないように特に注意する。**	／		
8月中旬（袋かけ後）	べと病、黒とう病、さび病、チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ、コガネムシ類	1．ICボルドー66D 2．ダントツ水溶剤	50倍（2kg） 2,000倍（50g）	発病前～発病初期 前日まで	－ 3回以内	250ℓ	1．他樹種へ飛散させない。 2．ICボルドー66Dに替えてクプロシールド 1,000倍を散布してもよい。	／		
収穫後	べと病、さび病	1．ICボルドー66D	50倍（2kg）	発病前～発病初期	－	250ℓ		／		
休眠期	ブドウトラカミキリ	1．ガットキラー乳剤	100倍（1ℓ）	休眠期（落葉後～萌芽前）	2回以内	300ℓ		／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
ハウスや雨よけ栽培では暦日でなく生育に合わせて散布する。
農薬登録上の大粒種とは、デラウェア、やまぶどう以外の品種をさす。
※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。

ぶどう（デラウェア）（露地、雨よけ）

発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
4.24	4.30	6.4	6.8	6.12	8.15

平年値（東根市関山）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
休眠期	露地栽培で晩腐病が多い場合は、トップジンMペースト３倍（休眠期（萌芽前）３回以内）を結果母枝を主体に塗布する。									
３月下旬（休眠期）	晩腐病、黒とう病、（ブドウトラカミキリ）	１．デランフロアブル	200倍（500cc）	休眠期	１回	300ℓ	１．休眠期の防除は、必ず粗皮削りをしてから散布する。 ２．前年の房の取り残し部分及び巻ひげなどの除去は晩腐病防除に重要であるから徹底する。 ３．**前年ブドウトラカミキリの秋散布を実施しない園では、この時期トラサイドA乳剤300倍（発芽前（休眠期）、２回以内）を加用する。また、周辺の訪花昆虫保護のため３月下旬までに散布を終えること。**	／		
状況５月上旬（展葉２～３枚）	ツマグロアオカスミカメ	１．ウララＤＦ	2,000倍（50ｇ）	開花前まで	2回以内	200ℓ	１．ツマグロアオカスミカメの発生が心配される園では散布する。	／		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
５月中～下旬（展葉４～５枚）	晩腐病、べと病、褐斑病、黒とう病	１．ホライズンドライフロアブル	2,500倍（40g）	21日前まで	３回以内	200ℓ	１．**前年晩腐病が発生した園地では、枝かけ具（バンシャット）を設置する。** ２．ホライズンドライフロアブルは他樹種に飛散させない。	／		
	フタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ	２．アグロスリン水和剤※1	1,000倍（100g）	21日前まで	５回以内					
６月上旬（第１回ジベ処理直後）	晩腐病：灰色かび病	１．オーシャイン水和剤	2,000倍（50g）	７日前まで	２回以内	250ℓ		／		
	晩腐病：晩腐病、べと病	２．オーソサイド水和剤80	800倍（125g）	30日前まで	３回以内					
６月中旬（落花直後）	晩腐病：黒とう病、褐斑病、さび病、灰色かび病	１．パレード15フロアブル	2,000倍（50cc）	７日前まで	２回以内		１．**晩腐病が発生する園地では果房に笠掛を行う。** ２．果粉溶脱防止のため、大きさが小豆大までとする。	／		
	晩腐病：べと病	２．ベトファイター顆粒水和剤	2,000倍（50g）	30日前まで	３回以内	250ℓ				
	晩腐病：チャノキイロアザミウマ、ハスモンヨトウ、ブドウサビダニ	３．グレーシアフロアブル	4,000倍（25cc）	７日前まで	２回以内					
６月下旬（第２回ジベ処理直後）	晩腐病、黒とう病、さび病、灰色かび病	１．ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍（33.3g）	14日前まで	３回以内	300ℓ	１．汚染防止のため、この回以降は展着剤を使用しない。 ２．６月下旬になると晩腐病の胞子が雨によって飛散することが多くなるのでていねいに散布する。	／		
７月上旬	黒とう病、晩腐病、褐斑病、灰色かび病、さび病、（コガネムシ類成虫）、（カイガラムシ類）、（ハダニ類）	１．オンリーワンフロアブル	2,000倍（50cc）	前日まで	３回以内	250ℓ	１．**とび玉が入る迄に散布する。** ２．さび病、べと病、褐斑病の多発する園では７月上旬、中旬、下旬の３回下記薬剤を棚上散布する。雨が多い場合は引き続き８月上旬まで棚上散布する。 棚上散布薬剤（100ℓ当たり薬量）／散布量 Ｚボルドー　500倍（200g） クレフノン　100倍（１kg）／300ℓ ３．コガネムシ類成虫、カイガラムシ類の発生した園ではモスピラン顆粒水溶剤2,000倍（14日前まで、３回以内）を散布する。 ４．ハダニ類の発生が見られる園では、コロマイト水和剤2,000倍（７日前まで、２回以内）を加用する。	／		
収穫直後	べと病	１．ICボルドー66D	25倍（４kg）	－	－	250ℓ	１．**キクイムシは樹勢が弱ると多くなるので樹勢維持に注意する。**なお、発生が見られた園では、見つけ次第捕殺する。 ２．他樹種に飛散させない。 ３．スミチオン水和剤40は収穫前日数が長いので、収穫前の大粒種へ飛散させない。	／		
	コガネムシ類成虫、フタテンヒメヨコバイ、ブドウトラカミキリ	２．スミチオン水和剤40	1,000倍（100g）	90日前まで	（収穫終了後から萌芽までは２回以内）					
状況９月上～中旬	べと病	１．ICボルドー66D	25倍（４kg）	発病前～発病初期	－	250ℓ	１．降雨が続く場合散布する。	／		
休眠期	ブドウトラカミキリ	１．ガットキラー乳剤	100倍（1ℓ）	休眠期（落葉後～萌芽前）	２回以内	300ℓ	１．幼虫期をねらって結果枝に十分散布する。隣接して収穫前のりんごがある園では、りんごの収穫後に散布する。	／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
ハウスや雨よけ栽培では暦日でなく生育に合わせて散布する。
※１ 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。